

SAKASO

「さかそう」

ご自由にお持ちください

特集 先生に聞いてみよう

多職種で支える 緩和ケアのこと。



2023.12 Vol.63

お知らせ

公共寄附金へのご協力をお願いします

宮城厚生協会は救命救急医療から在宅療養、保健予防・健康増進、訪問・障害者医療・福祉、研修・研究、経済的に困難な方への無料低額診療など幅広い事業を行っています。いただいた寄附金は、宮城厚生協会の貴重な財源として各事業所の運営に必要な機器や消耗品、および医療従事者の教育・育成などに使用します。皆さまのご希望に添うよう、大切に活用させていただきます。

▶詳細は宮城厚生協会HPからもご確認いただけます。



※宮城厚生協会は税法上の「特定公益増進法人」です。当協会の公益目的事業を支援するための寄附金は、税法上の優遇措置が受けられます。

〈寄附金の手続き方法〉

坂総合病院1階にある「友の会」窓口までお越しのうえ、寄附金申込書にご記入ください。

公益寄附金へのご協力をお願いいたします

新型コロナウイルス感染症への不安から受診される方が多いままと
なっています。医師控えでの収益減に加え、マスク・ガウン・消毒薬など関連費用が
増えています。

宮城厚生協会は、救命救急医療から在宅療養、保健予防・健康増進、訪問・
障害者医療・福祉、研修・研究、経済的に困難な方への無料低額診療など幅広い
事業を行っています。これらの公益事業のため、皆様からのご寄附をお願いいた
だきますようお願い申し上げます。

寄附金の使い方
宮城厚生協会への寄附金は、各事業所運営に必要な機器や消耗品の購入
および医療従事者の教育・育成などに使用させていただきます。

寄附金による税制上の優遇措置
寄附者が個人の場合、その年次に贈った金額（所得控除の上限を
除く）から2千円を差し引いた額について、所得控除を受けることがで
きます。寄附者が会社などの場合、寄附金の全額が損金に計入されます。

寄附金の申込み手続き
宮城厚生協会へ寄附をしていただける方は、裏面の「申込書」に必
要事項を記入の上お届ください。下記までお問い合わせください。

ご依頼いただいた方のご名前を宮城厚生協会ホームページ及び各事業所に公表させていただきます。

お問い合わせ 公益財団法人 宮城厚生協会 TEL: 022-361-1113 FAX: 022-361-1124

診療予約・変更・お問合せ

まずはコールセンターへお電話いただき
ご確認をお願いいたします。

コールセンター **022-361-8288**

- 平日 8:30～16:30 (小児科のみ8:00～)
- 土曜 8:30～11:30 (小児科のみ8:00～)

※日曜・祝祭日、年末年始(12/30～翌年1/3)、8/16(お盆)は休業。

- ◎ 紹介状をお持ちの方は、必ずその旨をお伝えください。
- ◎ 上記時間以外で救急診療のお問合せは、病院代表番号
(022-365-5175)にお電話をお願いします。

詳細はwebサイトでもご確認いただけます。

坂病院 🔍 検索 <https://www.m-kousei.com/saka/>

表紙について

この時期らしいクリスマスアイテムを身に付け
た、緩和ケアに携わる皆さんを撮影。アイテムは
北山先生に用意していただきました。病棟から
臨む塩釜の街並みにも注目を!

● 表紙撮影 / 坂総合病院 緩和ケア病棟



電車の場合 ▶ JR仙石線・下馬駅下車。駅前が当病院です。

お車の場合 ▶ 第三駐車場は、当院ご利用の方は**無料**です。
第三駐車場と病院間の送迎バスを運行しています。

SAKASO 坂総合病院 広報誌「さかそう」
2023年12月1日発行

公益財団法人宮城厚生協会
坂総合病院

〒985-8506 宮城県塩釜市錦町16-5 <https://www.m-kousei.com/saka/>
【広報誌に関するお問合せ】Tel 022-365-5175(代)



毎回特集内容を変え、病気や病院のあれこれを発信。今回は、「緩和ケアの取組み」について紹介します。

特集

先生に聞いてみよう

多職種で支える緩和ケアのこと。



(左から)薬剤師の伊藤晴奈さん、緩和ケア科医師の北山治仁先生、リハビリテーション室主任の村上佑季さん、緩和ケア認定看護師の高橋寛名さん、在宅医療室看護師の福井朋子さん。緩和ケアは様々な職種が連携することで、患者さんに最適な医療が提供される

今年10月に再開した

「緩和ケア病棟」と、

在宅・外来の連携強化。

『いつでもどこでも、あなたの

「生きること」「暮らすこと」

「繋がること」を、私たちは

支えます』という理念を掲げ、

病気の時期に関わらず、

患者さんが安心して

過ごすために切れ目ないケアを

提供しています。

スタッフの皆さんから、

患者さんへの思いや

役割について聞きました。

Q 緩和ケアを支える一員としての思いを聞かせてください。

高橋さん…緩和ケアとは『患者さんの思いを大切にしながら希望に繋がる医療的ケアを提供すること』だと思います。その一方で、ケアを行う我々自身が健康で安全に仕事ができる場づくりにも取り組みたいです。

村上さん…リハビリは多職種と情報共有しながら連携できることが強みです。この強みを生かして患者さんが安心して過ごすことのできる場づくりにも取り組んでいます。

伊藤さん…私も多職種との連携や情報の共有、個々の職能を発揮することでよりよい緩和ケアの提供につなげたいと考えています。

福井さん…これまで在宅医療の存在が十分に周知されていないと感じることがありました。点滴や機械・器具を手放せない患者さんでも私たちのようにサポートする医療者がいる。まずはそのことを知ってほしいです。

患者さんの意思を尊重し、さらに切れ目ない医療を

今後の目標は各部署の活動を「緩和ケアセンター」として統合し、患者さんの詳細な情報を希望する療養場所にきちんと引き継ぐこと。主治医と患者さんの気持ちの橋渡しも緩和ケアの担うべき役割のひとつです。今、当院ができる最善の取組みを説明した上で、どこでどのような生活を送るかを選択してもらう。これが私たちの目標です。

がん医療は多様化しています。緩和ケアに関わるスタッフはそれぞれの領域の専門家です。私からの助言はありませんが、患者さんのふとした表情や動作から本心を感じ取り、声を掛け、悩みやつらさを受け止める。そして患者さんが最善の状態に近づけるよう行動する。そうした感性と視点を持ち続けてほしいと思います。

すね。入院・在宅のほかに緩和ケア外来があることが選択の幅を広げています。

伊藤さん…医師や看護師の尽力で、はじめに緩和ケア外来が拡充しました。その実績が患者さんを支える緩和ケア全体の充実につながっていると思います。

Q 緩和ケア病棟は今後どんな役割を担う場所になると思いますか？

高橋さん…まずは緩和ケアに携わるスタッフを増やし、そのケア活動を院内に積極的に拡げていきたいです。それが病院全体へより専門的な技術提供につながると思います。

村上さん…患者さんに「病院に行つてよかった」と思ってもらえる、包括的な医療を提供する場でありたいです。

福井さん…今回掲げた緩和ケアの理念が答えです。病棟をはじめ、患者さんに合わせた支援を続ける場所になると思います。

伊藤さん…薬剤師として苦痛症状のコントロールを支援するだけ

坂総合病院の方針が緩和ケア活動に

坂総合病院における緩和ケアの土台を作った北山先生。多職種の緩和ケアの中心的立場から、スタッフへ厚い信頼を寄せています。

当院はこれまで歴史的に「患者さんを包括的に支援する」姿勢を貫いてきました。スタッフが患者さんと向き合い、ニーズに応えてきたことが今につながっています。緩和ケア病棟が拡充されたことも病院理念の延長線上にあるもの。ここから特別な取り組みが始まるわけではありません。きつと「患者さんとその家族の困り事を減らしたい」という医療行為そのものが「緩和ケア」の本質なのでしょうね。そ

Q 緩和ケア病棟や外来の拡充は、患者さんにどんな利点をもたらすと思いますか？

高橋さん…がん治療の合間の患者さんも利用できるようになり、枠にも余裕ができたため患者さんへ情報発信がしやすくなりましたね。

村上さん…そうですね。そしてそれが院内のスタッフに向けた情報発信にもなっています。

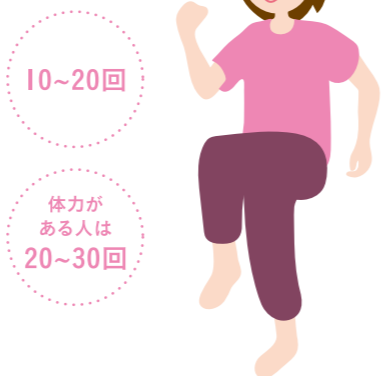
福井さん…患者さんに様々な治療の選択肢を提供できることで

#8 運動不足解決に役立つ室内運動④

寒さが厳しくなり、感染症も心配なこの時期。運動不足の解消に加え、ウイルスに負けない体づくりのためにも室内運動を継続して行いましょう。今回は道具もいらず、短時間でできる運動です。

代謝・血液循環をよくする「その場での足踏み」

- 1 両腕の肘を少し曲げ、腕を小さく振りながらその場で軽い足踏みを10~20回行う
- 2 体力がある人は腕をやや大きく振る。脚は無理のない範囲で高く上げ、リズムよく20~30回足踏みを追加して行う。



「運動療法センターのびのび」とは…?

坂総合クリニック1号館6階にあるメディカルフィットネス。健康増進・疾病予防運動、生活習慣病の運動療法、介護予防運動などを実践する施設です。

※現在は感染症対策のため、特定の病気の重症化予防を目的として個別にご利用いただいています

栄養手帖 ■■ -食養室だより-

野菜を食べよう！

お鍋が恋しくなるこの季節。お鍋に欠かせない野菜には、それぞれにたくさんの栄養素が含まれています。



にんじん

カロテン(ビタミンA)はのどや鼻の粘膜を丈夫にし、細菌に対する免疫力を高める効果があります



生しいたけ

不溶性食物繊維がたっぷり！その働きにより腸の動きが活発になります



春菊

春菊独特のにおい成分は食欲増進や胃腸の調子を整えるのに有効とされています



白菜

白菜のほとんどは水分。しかし、様々なビタミンやミネラルがバランスよく含まれています



トマト

赤い色素・リコピンは、血流改善や生活習慣病の予防・改善、肥満予防、美肌、視機能の改善に有効です



野菜摂取量の目標値は1日350g以上。冬はお鍋や温野菜で体を温めながら、おいしい野菜をもりもり食べましょう！

支えるひとたち



第35回 みやぎ保健企画 つばさ薬局

患者さんと家族、地域を薬局から支える人々。その「人となり」に迫ります。

つばさ薬局では来局する患者さんの対応だけでなく、自宅療養している在宅緩和ケアの患者さんの薬物療法にも携わっています。在宅緩和ケアでは医師や看護師とともに患者さんの自宅を訪問し、安心して過ごせるように薬の面から支えるのが薬剤師の役割です。病状により薬の管理環境が変化するため、ご家族や介護職スタッフとの連携は欠かせません。

私が緩和ケアに携わったきっかけは、坂総合病院緩和ケア病棟での研修や遺族会に参加した時に、「最期の時間を自宅で過ごしたい」という患者さんの思いや「自宅で過ごさせてよかった」というご家族の言葉に触れたことです。緩和ケアを受ける患者さんは、がんの痛み以外にも様々な苦痛を抱えています。今後も患者さんやご家族の声に耳を傾けることを大切にしていきたいです。

次号は

〔坂総合病院 総務課〕
鈴木 大之



注射薬を無菌状態で調製できる「クリーンベンチ」で薬を混合しています。口から薬を飲めない場合でも、安全に治療を続けることができます。



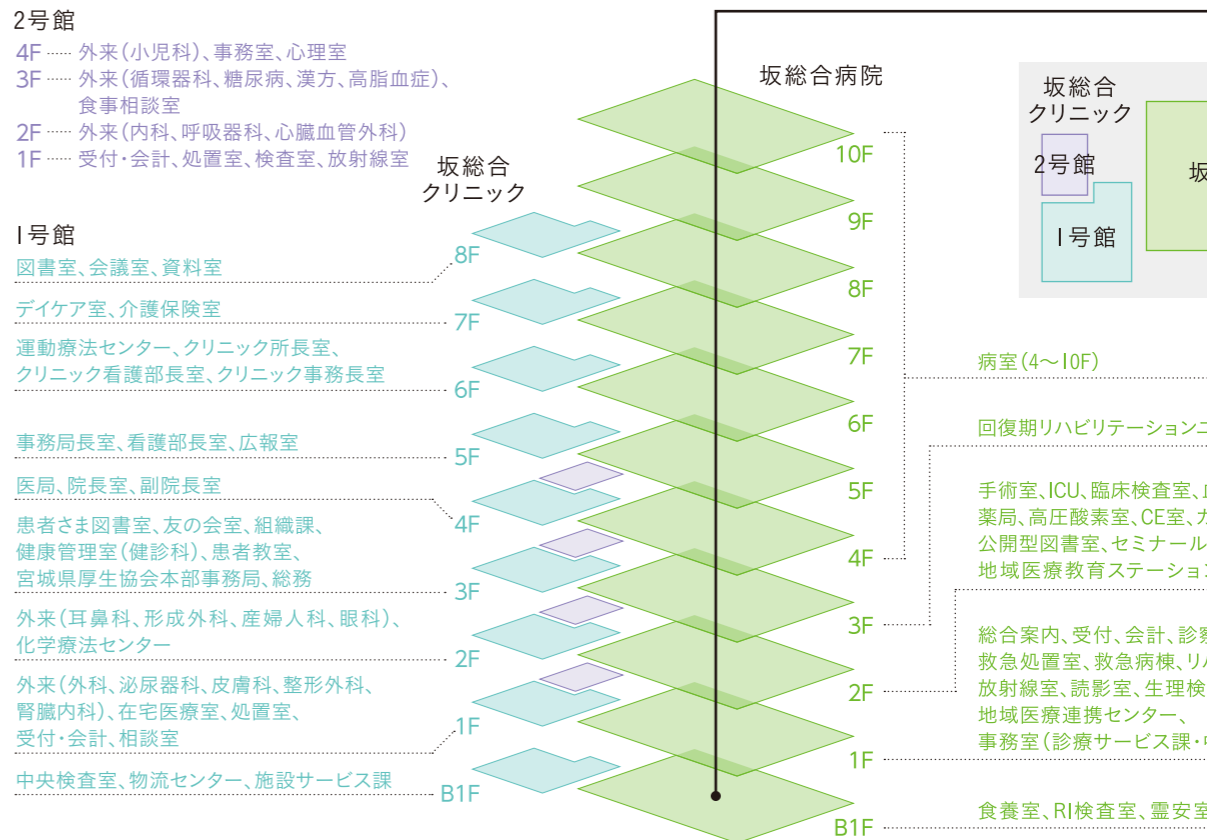
小倉 正嗣 (おぐら まさつぐ)
薬剤師(在宅緩和ケア担当)

板先 解子 (いたさき ときこ)

8名の管理栄養士が勤務する食養室。担当病棟によって担当業務は変わりますが、栄養指導や栄養管理、食事内容の調整を行うのが私たちの主な役割です。委託会社と連携した給食管理業務も行い、患者さんへの食事オーダー内容の確認やアレルギーにも対応。外来患者さんに対しては糖尿病を中心に個別栄養指導を行っています。



患者さんには常食、全粥食といった一般食のほか、嚥下機能が低下している患者さんのためのやわらか食やミキサー食、糖尿病食や胃切除後分割食など病態に合わせた食事を提供しています。緩和ケア科の患者さんに対して、13種の料理の中から好みの夕食を選択できる「おこのみ食」があるのも特徴です。手間がかかるために提供数には限りがありますが、その日の気分で食べたい料理を選べることや濃い味付けの食事でも食べられることから食欲不振の患者さんに好評です。

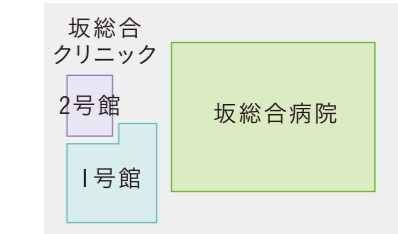


2号館

- 4F 外来(小児科)、事務室、心理室
3F 外来(循環器科、糖尿病、漢方、高脂血症)、食事相談室
2F 外来(内科、呼吸器科、心血管外科)
1F 受付・会計、処置室、検査室、放射線室

1号館

- 8F 図書室、会議室、資料室
7F デイケア室、介護保険室
6F 運動療法センター、クリニック所長室、クリニック看護部長室、クリニック事務長室
5F 事務局長室、看護部長室、広報室
4F 医局、院長室、副院長室
3F 患者さま図書室、友の会室、組織課、健康管理室(健診科)、患者教室、宮城県厚生協会本部事務局、総務
2F 外来(耳鼻科、形成外科、産婦人科、眼科)、化学療法センター
1F 外来(外科、泌尿器科、皮膚科、整形外科、腎臓内科)、在宅医療室、処置室、受付・会計、相談室
B1F 中央検査室、物流センター、施設サービス課



- 病室(4~10F)
回復期リハビリテーションユニット
手術室、ICU、臨床検査室、血管造影室、病理部、薬局、高圧酸素室、CE室、カンファレンス室、公開型図書室、セミナールーム、応接室、地域医療教育ステーション
総合案内、受付、会計、診察室、処置室、救急処置室、救急病棟、リハビリテーション室、放射線室、読影室、生理検査室、内視鏡室、地域医療連携センター、事務室(診療サービス課・中央病歴室)、売店
食養室、RI検査室、霊安室

連携医のご紹介

さざんか往診クリニック

[内科]



院長 石垣 五月 先生 (いしがき さつき)



内科 さざんか往診クリニック

〒985-0863 宮城県多賀城市東田中2-2-3
ベルステーションビル3B
TEL 022-353-6261
FAX 022-353-6260

Table with columns for 診療時間 (9:00-12:00, 13:00-17:00) and days of the week (月, 火, 水, 木, 金, 土, 日).

休診日/金曜午前、日曜、祝日
※土曜は隔週(不定期)



患者さんとご家族を支え、寄り添う

平成25年の開業から、今年で11年目を迎えることができました。

私は仙塩総合病院に勤務していた時に東日本大震災を経験しました。病院は2m弱の浸水被害に遭いその機能を一時的に失いましたが、入院患者以外に避難してきた地域住民のケアをスタッフ総出で行いました。震災から数日後、当時往診していた約60名の患者さんの安否が気になりケアマネジャーや訪問看護師に確認しましたが、迅速な判断で患者さんの元を訪ね、全員の無事を確認していたのです。私は

その時、助けが必要だった往診患者の力になれなかった自分の無力さを感じました。この経験から生まれ育ったこの地域のために役に立ちたいと思い、開業を決意しました。そして現在まで、訪問診療医として患者さんだけでなくご家族と最期まで向き合っていて診療を続けています。

訪問診療クリニックは、検査・入院施設がある医療機関の協力がなければ運営は難しいです。坂総合病院にはいつも迅速かつ快く受け入れていただき本当に感謝しています。これからもご指導よろしくお願ひします。

坂総合病院から

仙塩地域の訪問診療を担っている石垣先生は、在宅療養中の患者さんにとって非常に大きな支えであり、心強い存在となっております。当院としても地域医療の発展のために先生方との連携を密にして、迅速な対応を心掛けていきたいと思っています。今後ともよろしくお願ひします。